

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	長寿社会課	
施策	3	高齢者福祉の充実	評価 責任者	下田 法子	内線 2550
小施策	3-1	地域包括ケアシステムの構築	評価 シート 作成者	佐々木 俊幸	内線 2551

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
少子高齢化の進行により高齢化率が上昇を続けており、平成28年4月には25%を超え、団塊の世代が75歳以上となる37年度には30%を超える見込みとなっている。このことに伴い、認知症高齢者やひとり暮らし高齢者、高齢者のみ世帯が更に増加すると見込んでおり、高齢者を地域全体で支える仕組みとして、地域包括ケアシステムを構築していく必要がある。		高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を営めるよう、医療や介護、介護予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」を構築するための取組を強化する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民		要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価																						
指標①	単 位	目指す方向	成 果 点	⇒	成果の要因分析																					
地域包括支援センター等への相談件数	件	↗	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターへの相談件数が増加している。 相談機関の周知と業務の充実が図られている。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 相談機関の周知について、チラシやパンフレットを作成した。 広報等で積極的に取り上げた。 地域ケア会議を積極的に開催した。 																					
当初値 (H25)	21,052	H31目標値	24,000	H36目標値	25,000																					
<table border="1"> <caption>実績値の推移 (相談件数)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値 (H25)</td> <td>21,052</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>14,795</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>15,277</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>15,987</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>-</td> <td>24,000</td> </tr> <tr> <td>H36</td> <td>-</td> <td>25,000</td> </tr> </tbody> </table>						年度	実績値	目標値	当初値 (H25)	21,052	-	H27	14,795	-	H28	15,277	-	H29	15,987	-	H31	-	24,000	H36	-	25,000
年度	実績値	目標値																								
当初値 (H25)	21,052	-																								
H27	14,795	-																								
H28	15,277	-																								
H29	15,987	-																								
H31	-	24,000																								
H36	-	25,000																								
			問 題 点	⇒	問題の要因分析																					
			<ul style="list-style-type: none"> 住民アンケートによる地域包括支援センターの認知度は50%以下である。 地域包括支援センターの業務負担が過大となっているとの指摘がある。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 住民全体に地域包括支援センターが認知されているというわけではない。 相談件数が増えるに従い、従事職員数が不足することとなる。 																					

今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> ★ 引き続き、広報もりおか等で地域包括支援センターの周知を図っていく。 ★ 地域包括支援センターに、生活支援コーディネーター(兼)認知症地域支援推進員を配置し、周知を行う。 ☆1 広報もりおかでの周知のほか、有力な周知方法を検討する。 ☆2 高齢者人口の増加に伴い、地域包括支援センターを適切に設置する。 ☆3 高齢者人口の増加に伴い、地域包括支援センターの職員数を見直す。 ☆4 高齢者人口が減少した地域は、地域包括支援センターの職員数を見直す。 	